

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000724		
法人名	株式会社 プラティア		
事業所名	グループホーム プラティア花園		
所在地	大阪府東大阪市稲葉2丁目1番13号		
自己評価作成日	令和4年8月3日	評価結果市町村受理日	令和4年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年8月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の運営理念である『ご利用者様本位』とは何かをスタッフ全員で考え、日々実行できるように取り組んでいます。ご利用者様が、いつまでも夢と希望を持ち続けられるよう、ご本人様が望んでいらっしゃることを毎日の生活の中での話から見つけ出したり、何気ない行動の中からニーズを見つけ出したりしています。
高齢者、認知症だからとあきらめるのではなくその人らしく生活できるよう支援しています。ご利用者の第二の人生を預かっている気持で、余生を楽しく、ここに来てよかったと思ってもらえるような施設を目指しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各フロアに毎月利用者と一緒に制作する季節の壁画を飾り、玄関やベランダで花や野菜を育て、季節感を取り入れている。季節行事に因んだ毎月のイベント、フロアの個性や利用者の希望を取り入れた日々のレクリエーションや「寄り添い介護」、調理や洗濯等の家事参加等を通して、日常生活の中で楽しみや役割が感じられるよう取り組んでいる。時期や時間帯を勘案しながら、外出の機会づくりにも努めている。その人らしい生活が継続できるよう、利用者個々の意向やニーズに沿った個別支援に努め、また、過剰介護にならない自立支援と生活リハビリにより、機能の維持向上に取り組んでいる。コロナ禍で面会制限がある中、「近頃の様子」(2ヶ月に1回郵送)・ブログ・ツイッター・インスタグラム・ライン電話等で、家族に利用者の様子を伝えられるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をスタッフがいつも目にするところに掲げている。会議等の場において唱和することで、常に行動規範としての意識付けをしています。会議、面談等で実践できているかどうかの確認をする機会を設けている。	法人の「運営理念」「基本方針」を明文化し、「基本方針」に「地域社会と共に」という地域密着型サービスの意義を盛り込んでいる。「運営理念」「基本方針」を各フロアに掲示し、「運営理念」を毎月のフロアミーティングで唱和し共有を図っている。フロアミーティングや面談等で立ち戻り、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で運営推進会議を含め、地域の行事や、事業所の行事が行われていない。事業所間の交流はない。しかしご近所の方への挨拶や、個々でのコミュニケーションは図れている。	コロナ禍以前は、散歩・買い物・理美容・外食等での外出、地域行事への参加、ボランティアの来訪等、利用者が地域とつながりながら生活できるよう支援していた。コロナ禍のため通常の外出や交流は休止しているが、近隣住民との挨拶やコミュニケーション、訪問理美容・事業所の買い物での地域の店舗の利用、地域の介護相談への対応等、可能な方法で地域とのつながりが持てるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話をさせていただく機会がある。現在、地域の薬局スペースをお借りして行っていた介護相談会は中止をさせていただいています。		

グループホームプラティア花園

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>コロナ禍の中、運営推進会議はできていないため意見を生かしたサービスの向上には行かせていない。資料でのやり取りだけになっている。</p>	<p>利用者・家族代表・地域代表(民生委員)・地域包括支援センター・知見者(他事業所管理者)を、運営推進会議の構成委員としている。コロナ禍のため書面開催とし、2ヶ月に1回「活動報告」を、地域代表・地域包括支援センター・知見者に郵送している。「活動報告」に、行事、訪問診療・看護・歯科・訪問理美容、会議、研修、新型コロナ感染症関連、入居状況を記載して報告している。送付状に、意見等の受け付け連絡先を記載している。議事録ファイルを玄関に設置し、公開している。</p>	<p>家族も構成委員であることから、「活動報告」の郵送が望まれます。構成委員から意見や情報があれば、次回の「活動報告」で共有し、書面開催でも意見・情報交換の場となることを期待します。</p>
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>コロナ禍の市役所のはほとんど行けていない。 中福祉事務所へは月一度の訪問を行っていたが、ここ2か月ほどはコロナ陽性者増の為行かず郵送で対応</p>	<p>運営推進会議の開催は休止しているが、地域包括支援センターに「活動報告」を郵送している。福祉事務所との連携は継続している。手続き等に関して市に問い合わせたり、メール等で市から情報提供を受け、事業所の適正な運営や感染予防対策に活かしている。</p>	

グループホームプラティア花園

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の勉強会を開催して、身体拘束は行わないことの理解している。身体拘束ゼロ委員会では、3か月に1回会議を開催して、身体拘束が行われていないか、職員に理解を進めていくにはどうすればいいか。目標を決めその過程と周知についてを話し合っている。玄関は建物の構造上および防犯上施錠をさせていただいている。ユニット間は自由に行き来していただいています。	「身体拘束適正化に関する理念及び方針」を整備し、身体拘束を行わないケアを実践している。「身体拘束委員会」を3ヶ月に1回開催し、現状の確認や振り返り、適正化に向けた具体的な検討等を行っている。年間研修計画をもとに「身体拘束について」の研修を年2回行っている。今年度は資料研修の形で実施し、研修レポートの提出で理解を確認している。玄関は事故防止のために施錠しているが、各フロアの扉は開放し、階段・エレベーターの使用は自由で、希望があれば職員が戸外に同行し、閉塞感を感じないように努めている。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアが行われていないか、虐待に繋がるようなケアになっていないか、職員同士で声掛けを行い、いつもお互いが気に掛けるようにしている。ストレスや悩みに気づけるように職員間で声掛けを行っている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様やご家族様と話し合いを行い、必要であれば個々のニーズに合わせて後見人制度の利用につなげられるようサポートを行っている。また、利用開始後も後見人の方の訪問時等の際には、適切な支援ができるように調整をさせていただいています。		

グループホームプラティア花園

評価 項目	評価 項目	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をいただいて支援方針やリスク等も併せて説明させていただいています。不安に思う点や疑問点等を途中でたずねるようにして納得いただける務めています。また、よくある質問やホームでの生活に沿ったを具体内容を提示するようにし、捕捉説明させていただいています。現在コロナ禍の為電話、オンライン等活用して報告を行っている	/	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご利用様の話を傾聴するようにしており、場合によってはご家族様と共に話し合う場を設けている。ご家族様来訪時には職員は積極的に声掛けさせていただくようにはしているが、コロナ禍の中、面会禁止を行っているので直接話す機会は少なくなっている。	コロナ禍のため、家族の面会は基本的には休止しており、家族の意見・要望の把握は主に電話で行っている。2ヶ月に1回郵送する「近頃のご様子」で、利用者個々の生活面・体調面や、事業所の行事を伝え、家族が意見や要望を出しやすいように取り組んでいる。把握した意見・要望は、ケース記録の申し送りでも共有し、個別に対応している。利用者の意見・要望は、日々の会話の中で把握に努め、ケース記録やフロアミーティングでも共有し、介護計画や「寄り添い介護」等に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍の為毎月の全体会議は行っていないが、申し送り等で必要な内容を周知している。フロアミーティング等で報告や提案をお互いが出し合うようにしている。必要に応じて、職員と個別に話し合いの時間を設けて意見交換している。	月に1回フロアミーティングを開催し、職員の意見・提案を、利用者のケアや介護計画・業務・行事等に反映できるよう取り組んでいる。ミーティングの前に議題を配布して職員の意見を収集し、効率的に進行し、欠席した職員の意見も反映できるよう工夫している。管理者は、定期的には年3回、随時にも個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。	

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、人事考課表や職能要件書を用いて職員が個々に自己評価を行い自らを見つめなおす機会にしている。同時に上司はしっかりと努力や実績に対して評価をして個々に反映させ、向上心を持って働ける環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修制度により、研修を受けやすい環境になっているが現在はコロナ禍の為中止している。本来なら全体会議時にホーム内で毎月順番に担当者が勉強会を開催して、学習する機会と時間を設けていたが、コロナ禍の為行えていない。個々で必要な機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	普段は近隣グループホームの運営推進会議に参加したり、GH事業者部会に参加したりして、情報交換を行っているがコロナ禍の中現在ではできていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談からご本人様とじっくりと向き合いながら、思いをしっかりと受け止められるようにしている。入居までにはできる限りお会いできる機会を多く持つようにする等、柔軟に対応することで、入居の不安軽減できるよう心掛けている。職員が同じ介護ができるよう情報共有を行っている。入居後も不安を取り除けるよう進んでコミュニケーションを心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの介護で苦勞されてきたことをしっかりと受け止めることから始めさせていただきようとしています。入居前面談等でしっかりと不安等に応えるようにして、サービス利用開始時には安心していただけるように心がけている。そして、ご家族とともにご本人様をささえていけるような関係の構築に努めている。入居後も定期的に連絡させていただき本人の状況を説明し不安がないよう努めている		

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャー関係者からの情報収集を行い、それを基に、入居前面談や契約時にご家族様の必要とされていることに耳を傾け、ご本人様の様子を注意深く観察することで、必要とされるサービス内容を提案して、スムーズに様々なサービス提供ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人のご本人様が主人公である考えを理解して、ご本人様の気持ちを大切にしています。生活する上で本人様がすることはしていただいて、そのできごとを共に生きる姿勢、助け合う気持ちに繋がっていきけるようにしています。お互いが普段の生活の中で何気ないところで繋がっていきける環境づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族の絆がホームでの生活においても重要と考えています。来訪時、共に過ごせる居場所作り等を心掛けています。困難な事例等では、一緒になって支援していけるよう、その方法についても確認させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様に馴染みの人や場所を聴き、入居されるまでの生活を理解するように努めている。そして、ご家族様の協力を得ながら馴染みの場所に外出されている。また、『寄り添い介護』において、ご本人様の希望される場所や馴染みの場所へ訪れることで安心に繋がれるよう支援するが、現在はコロナ禍の為行えていない。	入居時に馴染みの人や場所についての情報があれば、「入居前面談アセスメント」に記録している。コロナ禍以前は、家族・知人等の来訪、施設内のデイサービスとの交流、「寄り添い介護」での外出支援等で、馴染みの関係継続を支援していた。コロナ禍のため、通常の面会・交流・外出を休止しているが、「近頃のご様子」(2ヶ月に1回郵送)・ブログ・ツイッター・インスタグラム・ライン電話で利用者の様子を伝え、馴染みの関係が継続できるよう努めている。	

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様お一人おひとりの思いを理解して、どのような関わり方がいいのかを職員間でも話し合っている。ご利用者様同士が交流できるレクリエーションや、お互いのできることを一緒にしたり助け合ったりすることができるような雰囲気作りや機会を提供している。ご利用者様同士で口論になることもあるが、職員が間に入ることにより、良好な関係となるよう努めている。時折席替えを行ったり、その時の関係性を確認した上で異動等行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたあとも継続性を大切に、入居されていたときと同じように相談できるようにしています。必要に応じて、次の事業所等との連携して、安定した生活が継続できるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で発せられる言葉や表情、行動等を職員間で情報共有し、ご本人様が本当に望まれていることは何なのか。言葉にならない思いを考えることを大切にしています。ご家族様にも確認を行っている。	利用者個々の思いや暮らし方の希望について、入居時に把握した内容は「入居前面談アセスメント」に記録し、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。入居後は日々の会話・表情・行動等から把握に努め、把握した内容をケース記録やフロアミーティング等で共有し、支援や介護計画更新に反映している。把握が困難な場合は、家族からの意見や情報も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までに可能な限りご本人様・ご家族様、関係者の方から情報を得ようとしています。入居後も日々の生活や会話の中から生活歴を知るようにして、できる限りこれまで過ごされていた環境に近い空間の提供と生活習慣に添って安心して過ごしていただけるように努めている。		

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活習慣を継続できるように、個人の生活リズムを大切にしている。バイタルチェック表、水分・食事摂取チェック表、排泄チェック表等で個人個人の日々の状態をしっかりと確認している。また、できること、できないこと、できにくくなっていることの把握に努め、適切なサポートができることでその能力を発揮していただけるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に情報収集に努めており、定期的または現状に変化があった時のカンファレンスにおいて意見を出し合いどのような支援ができるのかを話し合っている。医療頻度の高い方に関しては、医師や看護師に意見を求めるようにしている。	「入居前面談アセスメント」をもとに初回の介護計画を作成している。フロアミーティング・サービス担当者会議で計画内容の周知を図り、サービスの実施・利用者の様子等を「ケース記録」に入力している。毎月のフロアミーティングで利用者個々の情報共有や検討を行い、定期的には6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画の見直し時には、「モニタリング表」でモニタリング評価を、「現在の状況」で再アセスメントを行い、サービス担当者会議で検討している。利用者・家族の意向は介護計画に、医師や看護師の意見があれば「現在の状況」の「健康・医療」欄に記録し、計画に反映する仕組みがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った実践を行う中で、変化や気づきを記録することで、共有するように努めている。それにより日々のケアの向上ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化を見逃すことなく、いち早くその時々可能な限りの対応ができるよう、枠にとらわれず協力を求め最善のサービスが提供できるように体制の構築に努めています。介護の重度化予防や重度化時対応に取り組んでいる。		

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中外出とすることができていない。外部からのボランティアも来ていただくことができず、職員で試行錯誤しながらどうしたら、コロナ禍の中楽しんでもらえるか考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医をどちらにするか確認をしています。ご本人様やご家族様が信頼され、希望されるかかりつけ医を大切にさせていただけるようにしています。さらに、かかりつけ医と連携していつでも適切な医療を受けることができるようにしています。管理者や職員は、ご家族様での通院が困難な際には同行しご家族様に状況報告しています。	契約時に、受診についての意向を「ご家族様確認書」の「医療について」で確認している。内科の訪問診療・訪問看護・歯科の往診を受けられる体制がある。他科については家族同行を基本としているが、職員もほぼ毎回同行支援し、利用者の状況を伝え、受診結果を把握している。訪問診療については「医療連携記録」に、訪問看護については「健康管理報告書」に記録している。通院での受診については、「ケース記録」に記録している。職員間での共有事項は、タブレット内の申し送り共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックより看護師がユニットごとに週1回訪問していただいています。健康管理日誌を使って状態をお互いに共有して指示やアドバイスを受けています。定期以外にも連絡を密に行って早期に適切な医療が受けられるように支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提供する等ホームでの生活が継続できるよう情報提供しています。入院中は、できるだけ面会をして、ご本人様の状態把握に努めています。長期の入院は、認知症の症状を悪化させることがあるので、できる限り早い段階での退院ができないか相談するようにしています。		

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方針の説明をすることで、今後の入居生活で起こる可能性のある不安を少しでも軽減できるようにしています。ホームですること、できないことを含めて説明させていただいた上でご本人様やご家族様の意向をうかがっています。できる限りご本人様・ご家族様の希望・要望に沿えるよう医療機関等と連携しながら、穏やかな終末をホームを含めたどこで迎えるのか、終末期の支援に取り組んでいます。	契約時に、重要事項説明書内の「医療対応指針(重度化対応・終末期ケア対応指針)」「看取りに関する指針」を説明し、同意を得ている。重度化・終末期を迎えた段階で、主治医からの説明、事業所からの説明を行い、家族の意向を確認している。看取り介護の希望があれば、「看取りの同意書」で同意を得て、看取りに向けた「介護計画」を作成し、主治医・看護師と連携し家族の意向に沿った支援を行っている。年間研修計画をもとに、「ターミナルケアについて」の研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを基に、急変時の対応について、一覧表を作成し掲示して迅速な対応ができるようにしている。今までは外部の救命講習会等の参加を職員に促しているが現在はコロナ禍の為外部研修に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練を予定しているがコロナ禍の為、消防署立合いの訓練実施が延期されている。また、地震や水害等の実際の訓練が行えておらず、避難訓練・行動訓練を行う必要があるが、コロナが少なくなるのを待っている状況。 現在は資料で周知している。	通常は、年に2回消防避難訓練を実施している。令和3年度は10月に、自主消防訓練(火災報知器の使用・通報・避難訓練)を、デイサービスと合同で実施している。訓練実施後は報告書を作成し、参加できなかった職員には報告書の供覧で周知を図っている。年間研修計画をもとに、「非常災害時対応について」の研修を実施している。備蓄については、法人から支給があり、保存期間の管理や補充も法人が行っている。	避難方法を全職員が身につけるために、避難訓練の内容の周知を明確にする工夫が望まれます。

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様お一人おひとりのこれまでの人生と、今の姿をありのまま受け止めることで、人格を尊重し、また、人生の大先輩として尊敬の念を失うことなく、節度ある言葉遣いを心がけています。しかしながら、配慮にかけた言葉遣いになったり、声掛けが足りず不安にさせてしまうような場面があるので、さらなる意識改善を進めるよう職員間で注意し合える関係作りを進めている。	年間研修計画をもとに「プライバシーの確保について」「接遇マナーについて」「認知症ケアについて」等の研修を実施し、身体拘束適正化委員会でも検討し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について周知を図っている。気になる言葉かけや対応があれば、管理者が都度、助言や注意喚起を行っている。個人ファイル類は事務所の鍵のかかる書庫に保管し、写真・ブログについては「ご家族様確認書」で契約時に家族の意向を確認し、個人情報・プライバシーの保護を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中から、ご本人様が望まれていることを聴くようにしたり、何を伝えようとされているのかを考えたりするようにしています。生活の様々な場面で、自己決定や選択をしていただける声かけや機会の提供を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合にならないように、フロア会議で見直し状況の確認を行っている。1日の基本的な日課はあるが、起床や朝食の時間は特に決めていない等、お一人おひとりのペースに生活習慣に合わせて暮らしていただけるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日気持ちよく過ごしていただけるよう身だしなみを整えるように心掛けている。生活の中で恥ずかしくない様、本人の意志を尊重しながら身だしなみを考えている。		

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	食材のカットや盛り付け、お盆拭き等ができる 方のできる協力をさせていただいている。でき る喜びや楽しみを感じていただけ、また 力を発揮できる場にもなっています。職員も ご利用者様と同じ食事をできる限り一緒に いただいて楽しい食事時間になるようにし ています。イベント食や外食レクも提供。個 人の身体状況に合わせた形態を素早く調 節して提供。好みの食事の提供を心掛けて います。	委託業者から献立と食材が届き、各フロアで 調理した食事を提供している。利用者個々の 状況に応じた食事形態への対応も各フロア で行っている。可能な利用者は、食材のカッ ト・盛り付け・お盆拭き等に参加できるよう支 援している。職員も利用者と一緒に同じ食事 をとり、利用者は自宅で使っていた食器を使 い、家庭的な雰囲気大切にしている。毎月、 イベント食の日を設け、行事や利用者の 希望を取り入れて企画し、調理したり購入し て提供している。個別の希望には、「寄り添い 介護」を活用して対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎日しっかりと チェック表を利用して把握しています。ま た、摂取量が少なくなっている方には、食 事形態の変更や好みに合わせた食事内容 や様々な飲料水等の提供をさせていただ いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	職員は、口腔内の汚れが誤嚥性肺炎を起 こすことを理解して、毎食後、声かけをして 歯磨きを促し磨き残しの確認や口腔ガーゼ 等を使った口腔ケアを実施して清潔が保て るように努めています。協力歯科機関より アドバイスをいただき職員の口腔ケア意識 向上を行っている。		

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄状況やパターンを把握して、声かけや誘導を行っています。また、排泄の兆候を見逃さないようにして、不快感の早期解消に努めています。お一人おひとりに合った排泄方法、排泄用品の使用で対応し、できないところだけのサポートに徹している。おむつに頼らないですむように、できる限り車いすの方も便座に座っていただいで排泄できるようにしています。	排泄チェック表で、利用所個々の排泄状況や排泄パターンを把握し、タブレットにも記録している。排泄の自立度に個人差が大きい状況であるが、2人介助も含め、昼間はトイレでの排泄を支援している。自立支援・生活リハビリにより、自立度が上がる事例もある。検討事項があれば都度検討し、ケース記録の申し送りで経過も共有しながら、現状に即した介助や排泄用品の使用につなげている。声かけ・報告時、ドアの開閉等、プライバシーに配慮したケアの周知に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用して排便の確認をすることや水分摂取の大切さを理解して、便秘にならないように努めています。食事前の体操や散歩等適度な運動をしたり、乳製品等を提供することで、便秘改善を目指しています。それでも便秘がある方は協力医に相談の上、服薬等行っている	/	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めておらず、ご本人様に確認をしてから入浴していただいています。失禁等があれば、時間外でもシャワー浴等で対応しています。拒否があるときは無理をせず、タイミングをみてお誘いしたり対応職員が変わったりしてご自身からの入浴を心掛けています。	入浴日を決めず、利用者の体調・希望等に応じて、週2回以上、希望の頻度で入浴できるよう支援している。入浴チェック表・タブレット記録により、入浴状況を把握している。一般浴槽で、一人ずつ湯を入れ替え、自分のペースでゆっくり入浴できるよう支援している。身体状況に応じて、シャワー浴で対応し、デイサービスの機会浴が使用できる設備もある。ゆず湯・入浴剤などで入浴が楽しめる工夫も行っている。	

グループホームプラティア花園

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活リズムや体調に合わせて休息をしていただいています。起床時間や就寝時間は決めておりません。日中、外気浴したり活動量を増やす工夫したりして、夜間入眠しやすく熟睡できるように、努めています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師からの説明を受けて薬の確認や内容の把握を行っています。特に薬の変更があったときは、症状の変化やご様子の変化がないかをしっかりと見るようにしています。服薬ルールを設けて確認し合いながら服薬していただいています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できなくなってしまったことが、職員と一緒に繰り返し行うことでできるようになる、その喜びを感じていただけるよう能力の見極めをしっかりと行って実施していただいています。個々の能力に応じた役割を持っていただくことやレクリエーションの充実にも力をいれています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在外出の支援はコロナ禍の為行えていない。コロナ禍ではなければ、できる限り時間を見つけて散歩や買い物に出かけています。個別の外出等は『寄り添い介護』を活用して個々の希望に沿った外出ができるようにしています。	コロナ禍以前は、散歩・買い物・季節の外出行事、「寄り添い介護」を活用した個別外出等、積極的に外出支援を行っていた。コロナ禍のため通常の外出が休止しているが、時期や時間帯を勘案しながら、近隣の散歩・初詣・花見・個別外出(寄り添い介護)等、可能な範囲で外出できるよう取り組んでいる。	

グループホームプラティア花園

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方には、ご家族様の了解をいただいて、ご自身で管理していただいています。また、ご希望によって、事務所で小口現金として預からせていただいて、買い物等には同行するが、ご自身で支払いができる方には、支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在はコロナ禍の為、面会をお断りしている現状、ライン電話や通常電話を使用しご家族とのやり取りができるよう支援している。2カ月に一度本人様の状況を手紙でお伝えしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔が保たれるようにしています。季節に合わせた飾りをご利用者様と一緒に作成して飾り付けをしています。玄関やベランダでは、季節に合った花や野菜の収穫が楽しめるように、ご利用者様と一緒にお世話をしています。	共用空間に、テーブル席とソファ、廊下にもソファを置き、利用者がくつろげるよう配慮している。定期的な換気・掃除・消毒を行い、清潔な環境整備に努めている。毎月利用者と一緒に制作する季節の壁画を飾り、玄関やベランダで花や野菜を育て季節感を取り入れている。利用者が食事作りや後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ等の家事に参加し、生活感が感じられるよう支援している。食事前の体操は日課とし、その他は、各フロアの利用者の個性や希望に応じて、家事・壁画制作・カラオケに参加したり、個別レクリエーションを行う等、日中活動できるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やエレベーターホール等にテーブルやイスがあり、音楽が流れる中でゆっくりとくつろげるように配慮している。フロアでは個々のテーブルがあったりグループで分かれたり状況に合わせて変化を作っている。		

グループホームプラティア花園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で暮らされていた時の使い慣れた家具や食器等をできるだけ持ち込んでいただけるようお願いしています。居室にご自宅が再現できるようにご家族様に協力をいただいています。ご自身で作られた自慢の作品も飾らせていただいています。	各居室に、洗面台・クロゼット・レンタルベッド等を設置して。たんす・テレビ・冷蔵庫等の使い慣れた家具や電化製品、仏壇・写真・自作の作品等のなじみの物が持ち込まれている。利用者個々の状態に応じた家具の配置の工夫や福祉用具の利用等により、安全に自立した生活が継続できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等に目印となるような表示や写真等を取り付けて迷わない工夫。ご利用者様の動線に物を置かない安全への配慮。能力に応じた福祉用具の利用でこれまでの生活を継続していただけるようにしています。		